

富良野へ帰ってこないかイ?

富良野にUターンして見つけた自分らしい毎日

富良野を離れ進学・就職した富良野出身者の10人に1人は、再び地元に戻り新しい生活をスタートさせています。そんなUターン就職者にインタビューし、仕事のこと、生活のこと、ありのままの富良野ライフを語ってもらう新企画。今月号から3回連載します。

— 家族のように温かい市民のために貢献したい

● 家族も近所もみんな子育て

3年前に奈良から富良野の実家に帰郷した岡田さんは、祖母と両親、妹、奥さん、子どもの4世代で暮らす大家族。今年7月には第5子が誕生し、ますます明るくにぎやかな家

庭になりました。

「Uターンのきっかけは、子育てですね。両親からも帰ってきて欲しいと言われていたので、長男が幼稚園に入園するタイミングで戻ってきました。うちは子どもがいたので、面倒を見てくれる家族の存在は心強いですし、富良野は子どもを育てる環境にも恵まれています」と岡田さんは話します。

その1つは、地域の繋がりが強く、昔から知っている人が多いこと。近所には岡田さん自身が幼いころから知っている人が多く、安心して子どもを外で遊ばせることができます。また、自宅の周りには小さな子を持つ家庭も多く、友達や近所の人と関わり合う中で、子どもは多くのことを学び、大きく成長していると感じるそうです。「子どもたちは外で思いっきり遊んだり、夏は焼肉したりと、このまちでの暮らしが楽しそう。そんな姿を見ることができてうれし

7月に元気な男の子が1人増え4男1女の大家族になりました。通勤時間はほぼゼロ。子どもが遊んでいる時間帯に帰宅することも



相談員は2人体制で、お互いに担当する患者さんの情報を共有しています

いです」と、子どもの笑顔を見る機会が増え、岡田さん自身も心にゆとりを持つことができました。

● 知人が多いからこそ全力で仕事

高校時代のボランティア活動がきっかけで、社会福祉士となった岡田さん。富良野に戻ってきた当初、旭川の病院へ片道1時間かけて通勤していました。今春、自宅近くのふらの西病院に転職し、通勤時間がほぼゼロになりました。奥さんの子育ての負担を少しでも軽くしたいとの思いから、以前より積極的に子どもの面倒を見ているそうです。

職場では今までの経験を生かし、

即戦力として業務に従事。仕事の内容は、入院しているお年寄りの入院の相談と支援が中心です。カルテを見ながら患者さんから話を聞き、退院後に安心して生活する方法を提案しています。「患者さんはほとんど知り合いなので、他の地域で働いていたときより、さらに親身になって対応できます。患者さんによって、身体的にも経済的にも状況が異なり、一人ひとりに合わせたプランを作るのは大変ですが、患者さんのためを思えば苦労はありません」と力強く語ってくれました。

Uターンは自分自身にとって良いことばかりと言う岡田さん。家族のような温かい目で子どもの成長を見守ってくれる行政や市民のために、感謝の気持ちを持って働いています。

PROFILE

医療法人社団 ふらの西病院
事務部相談室

岡田 圭介さん (31歳)

北海道富良野高等学校時代、富良野市青少年サークル「ね〜びる」に所属。学童保育や福祉施設でのボランティア活動をきっかけに、天理大学社会福祉学部へ進学。社会福祉士として道内外で働き、今年6月に現在の職場に転職。

